

1. 教育計画

看護の統合と実践

分野	専門分野 看護の統合と実践	科目名	救急看護に活かす臨床判断の基礎
単位・時間	1 単位・20 時間	対象学年	4 年生
方法	講義、演習、グループワーク、見学	時期	前期
講師名 (担当授業時間数)	専任教員 横田幸恵 (20 時間)		
講師の実務経験	看護師として星総合病院に 16 年（うち救急病棟経験 4 年）		
学習目標	救急場面を通して臨床判断に必要な思考プロセスを学ぶ。		
成績評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院		
参考文献			
履修上の留意	解剖生理学、病態治療学（臨床推論）、生命を守る看護（危機的状況にある人の看護）、おとなの生活再構築を支える看護Ⅱ（急性期の看護）を復習しておきましょう。		
講師からの メッセージ	救急は年齢・性別・疾患・重症度などを問わず、あらゆる人々が対象です。よって、幅広い知識と技術、経験が必要な現場です。病棟看護のとの最大の違いは確定診断が分からない状態で看護が始まる事です。ホットラインからの少ない情報から、患者の状態や重症度・緊急度を瞬時に判断し、多職種と連携しながら、速やかに必要な処置や検査を実施します。多職種との連携が重要であり、判断の遅れや連携不足は、患者の予後不良に強く影響します。「五感を研ぎ澄まし、アセスメントしながらで行動できる」を目指します。		

2. 授業計画

回	時間	主題	授業内容	形態	担当者
1	2	救急看護とは	1) 救急医療体制 2) 救急看護の場と救急看護体制 3) 救急患者の特徴	講義	横田 4/11
2	2	臨床判断の思考プロセス	1) 臨床判断に必要な臨床推論の考え方 RRS/ショック	講義	坂本 4/14
3	2	臨床判断の思考プロセス	1) 救急看護に必要なアセスメント 2) SBAR	講義	横田 4/22
4	2	臨床判断の思考プロセス	1) 主要症状に対する救急看護に必要なアセスメント 胸痛/腹痛/頭痛	講義 演習	坂本 横田 5/1
5	2	救急看護と法的・倫理的側面	1) 関連法規と救急看護 2) 倫理面への配慮 3) 救急患者家族の特徴	講義 演習	横田 5/13

回	時間	主題	授業内容	形態	担当者
6・7	4	急変患者への対応	1) BLS 2) ICLS 3) ACLS	講義 演習	横田 5/22
8	2	災害時における看護	1) 災害の種類と疾病の発生機序 クラッシュ症候群、感染症など	講義	志賀 7/16
9	2	災害時における看護	2) 災害発生時の救護・救護体制と看護 3) 院内災害発生時の体制と看護	講義 演習	志賀 7/16
10	2	評価	筆記試験		横田